

第3次「出雲市子ども読書活動推進計画」【概要】

1. 計画策定の趣旨

子どもの読書活動は、子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を育てるものです。本計画は、平成13年に制定された「子どもの読書活動の推進に関する法律」に基づき、子どもを取り巻く社会情勢や第2次「出雲市子ども読書活動推進計画」の成果・課題等を踏まえ、本市の子ども読書活動の総合的かつ計画的な推進を図るため策定します。

本計画の計画期間は、令和2年度(2020)から令和6年度(2024)までの5年間とします。

2. 第2次「出雲市子ども読書活動推進計画」の成果と課題

平成27年に第2次計画を策定し、乳幼児健診会場でのブックスタート事業や家庭、地域、学校等での読み聞かせやおはなし会、公共図書館から施設への団体貸出などを実施し子どもの読書活動の推進に努めてきました。

特に学校においては、学校図書館に学校司書等の配置が進み、積極的に読書活動の取組を行なっているところもあり、学校図書館を中心として読書に親しむよう努めています。しかし、学校図書館をまったく利用しない児童生徒やまったく読書をしない児童生徒も依然として一定程度いる状況です（「全国学力・学習状況調査」）。

平成30年6月に全国の小中学校を対象に実施された「第64回学校読書調査」（全国学校図書館協議会等）では、就学前に家の人からよく本を読んでもらっていた児童ほど読書冊数が多い傾向であり、幼少期の読み聞かせ体験が読書好きな子どもを育てると報告されています。

このような状況から、乳幼児期から日常的に子どもの身近に本があるように環境を整え、周りの大人からの読み聞かせなどを更に普及・啓発し、子どもが本に親しむことにより、読書習慣の基礎づくりができるような取組が必要であると考えられます。

○第2次計画数値目標と進捗状況

項目	平成27年度 (2015年度)	平成30年度 (2018年度)	平成31年度 (2019年度) (目標)
学校図書館図書標準を達成する学校の割合	小 44.7% 中 14.3%	小 52.8% 中 28.6%	小 50% 中 50%
市内公共図書館における児童書の年間受入冊数割合	30.5%	32.5%	35%
学校司書等の配置率	100%	100%	100%
公共図書館の市民1人あたりの個人貸出冊数(年間)	7.32冊	6.82冊	8冊
子ども読書活動支援(ブックトーク・ストーリーテリング)専門ボランティア登録者数	42人	44人	50人

3. 第3次「出雲市子ども読書活動推進計画」の策定にあたって

(1) 計画の基本的な考え方

【基本目標】 **豊かな心を育て、主体的に学び、たくましく生きる力を育てる**

目標を達成するため、3つの基本方針を掲げ取り組みます。

【基本方針】

- I 子どもの発達段階に応じた読書活動の推進
- II 子どもの読書活動のための環境整備と充実
- III 子どもの読書活動に関わる人材の育成と連携

(2) 方向と施策

基本方針Ⅰ 子どもの発達段階に応じた読書活動の推進

子どもが読書の楽しさや喜びを知り、読書習慣を自然と身に付けるためには、乳幼児期から発達段階に応じて、周りの大人が継続して本との出会いを手助けし、本に親しむように導くことが重要です。

特に、乳幼児期における保護者の子どもへの関わり方が大切です。家庭での親子読書の重要性を啓発していきます。

①家庭における読書活動の推進

- ・ 家庭での読み聞かせの習慣化〔乳幼児期の発達段階に応じたブックリスト等配布〕
- ・ 親子ふれあい事業（ブックスタート）の継続
- ・ 乳幼児健診等での親子読書の啓発
- ・ 子育て支援センターでの読み聞かせ等の推進

②保育所、幼稚園における読書活動の推進

- ・ 保育所、幼稚園での読み聞かせ等の推進と親子読書の啓発

③学校における読書活動の推進

- ・ 朝読書など読書習慣づくりの推進
- ・ 学校図書館を活用した学習の推進
- ・ 家庭での親子読書の啓発
- ・ 子ども読書支援事業（ストーリーテリング、ブックトーク）の推進

④地域における読書活動の推進

- ・ 児童クラブやコミュニティセンターでの読み聞かせ等の推進

⑤公共図書館における読書活動の推進

- ・ 公共図書館での読み聞かせやおはなし会の開催
- ・ 発達段階に応じた図書の情報提供と親子読書の啓発
- ・ 子ども読書活動支援事業の推進

基本方針Ⅱ 子どもの読書活動のための環境整備と充実

子どもの自主的な読書活動を支えるためには、家庭、地域、学校等、あらゆる機会、あらゆる場所において、本に触れ、読書に親しむことができる環境をつくることが重要です。

各施設においては、子どもの発達段階にあった絵本や児童図書等の充実に努め、積極的に本の貸出を行い、読書習慣づくりに取り組みます。

①乳幼児が集まる施設での読書環境の整備と充実

- ・子育て支援センターでの図書の充実と貸出の推進
- ・保育所、幼稚園での図書の充実と貸出の推進

②学校での読書環境の整備と充実

- ・学校図書館の蔵書の充実と学校図書館図書標準の達成
- ・計画的な蔵書の収集・廃棄
- ・学校司書等の配置
- ・学校図書館運営体制の充実

③地域での読書環境の整備と充実

- ・児童クラブ、コミュニティセンターでの図書の充実
- ・コミュニティセンターでの地域団体等への支援

④公共図書館での読書環境の整備と充実

- ・乳幼児期の絵本と学齢期の児童図書の充実
- ・特別な支援の必要な子どもへの読書環境の整備
- ・子どもが集まる施設等への団体貸出の活用促進
- ・学校図書館との連携

基本方針Ⅲ 子どもの読書活動に関わる人材の育成と連携

周りの大人が子どもの発達段階に応じて、豊かな心やたくましく生きる力を育むような絵本や物語を手渡していかなければなりません。

そのためには、子ども読書活動に関わる人たちの存在は重要です。

公共図書館を中心に、子どもと本をつなぐボランティア等の育成や質の向上を図り、地域社会全体が連携・協力しながら読書活動に取り組んでいきます。

①読書活動研修の機会と充実

- ・読み聞かせ講座の実施
- ・子どもたちが集まる施設職員等への研修の促進
- ・学校図書館に関わる職員や学校司書等への研修

②ボランティアの育成と連携

- ・ボランティア養成講座（ストーリーテリング、ブックトーク）の実施
- ・公共図書館とボランティア団体等との連携

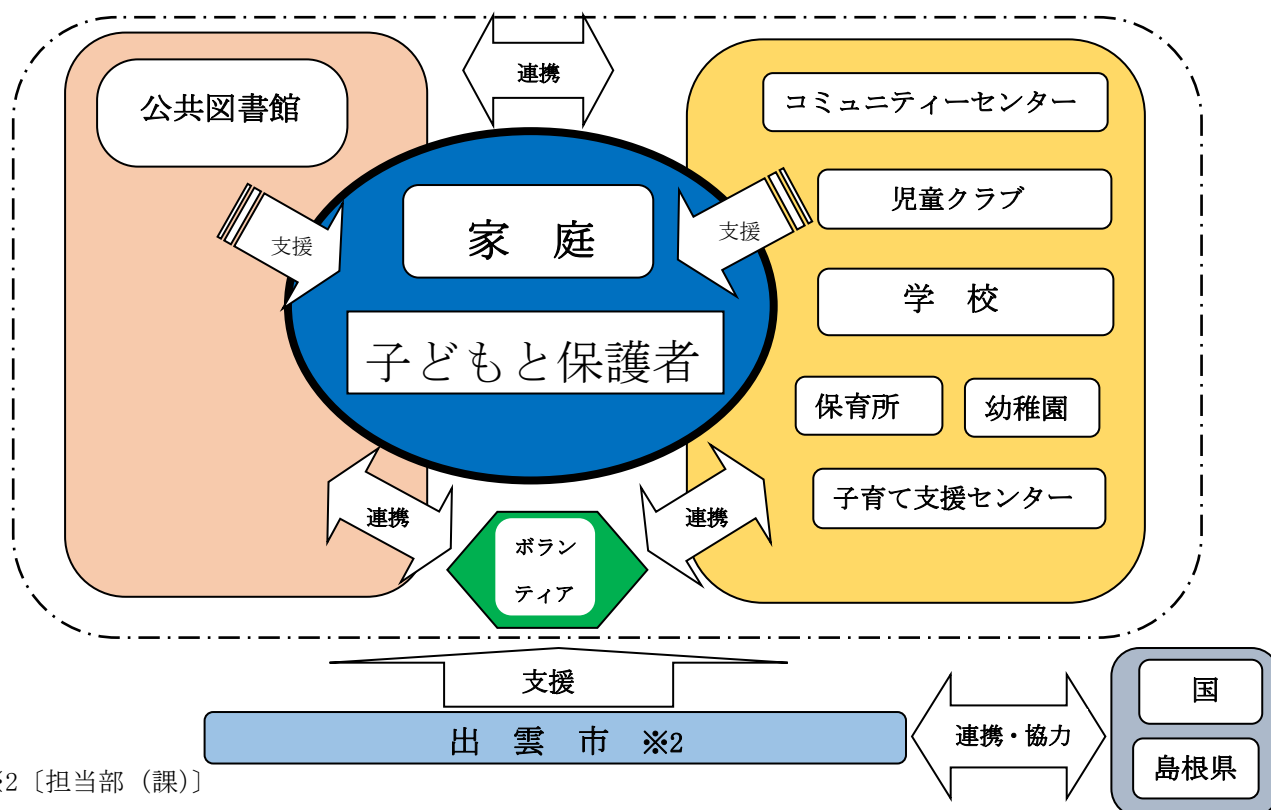
(3) 数値目標

項 目	平成30年度 (2018年度)	令和6年度 (2024年度) (目標) ※1
学校図書館図書標準を達成する小学校の割合	52.8%	75%
学校図書館図書標準を達成する中学校の割合	28.6%	50%
公共図書館における児童書の年間受入冊数割合	32.5%	35%
公共図書館における児童書個人貸出冊数(年間)	487,919冊	502,000冊
子ども読書活動支援(ブックトーク・ストーリーテリング) 専門ボランティア登録者数	44人	70人

※1 第2次計画の実績(令和元年度)を検証後、必要に応じて見直しを行います。

(4) 推進体制

家庭を中心として、各施設などが相互に連携・協力し施策を取り組みます。また、計画の進捗状況を図書館協議会において、毎年度、検証・評価し、PDCAサイクル(Plan:計画 Do:実行 Check:評価 Action:改善)による着実な施策の推進を図ります。



※2 [担当部(課)]

市民文化部(出雲中央図書館)、教育委員会(学校教育課)

総合政策部(自治振興課)、健康福祉部(健康増進課)

子ども未来部(子ども政策課、保育幼稚園課)